

現在進行形を使う未来形

1. 近い未来？

現在進行形が未来を表すことは中学校で習います。その際、「近い未来」に限って使われると学んだのではないのでしょうか？

しかし実際には、「近い未来」といったルールではなく、他のルールが存在します。よって、その正しいルールに沿っていれば、近くても遠くても未来を表すことができます。

その正しいルールとは、準備の調った予定のことです。

2. 準備万全の予定

例文 1

I'm buying a new PC.

(新しいパソコンを買う予定です。)

現在進行形の未来は「準備の整った予定」を表します。そしてその予定は、「近くても遠くても」現在進行形で表すことができます。

よってこの文では、パソコンの資金が貯まっており、尚且つ予約までしているかもしれないことが読み取れます。

例文 2

I'm going to buy a new PC.

(新しいパソコンを買う予定です。)

例文 1 を **be going to** で表しています。文法的には全く問題のない文ですが、現在進行形を使った場合と意味が少し異なります。

be going to のページで考察している通り、**be going to** も「予定していること」を表します。しかし、現在進行形の文と違い「準備」までは関与していません。

I'm going to buy a new PC.

(新しいパソコンを買う予定です。)

※漠然と予定している

I'm buying a new PC.

(新しいパソコンを買う予定です。)

※パソコンを買う手配が整っている

このように、現在進行形と **be going to** のそれぞれが表す未来形には、「準備が整っているかどうか」の決定的な違いがあります。